目　次

【共通テーマ】　農山漁村地域型インクルージョン――生活問題をめぐる実践から福祉を問い直す

第一章　現代に立ち現れる生活問題と「農山漁村地域型インクルージョン」　山下　亜紀子

一　本書における問い……10
二　生活問題対応に関する二つの学術的視座……13
三　地域社会レベルにおける生活問題への対応……19
1　村落研究のレビュー……19
2　地域社会という用語について……21
四　現代における生活問題の射程……24
1　村落研究と生活問題の広がり……24
2　ケア・フェミニズムと生活問題の広がり……25
五　本書の構成――「農山漁村地域型インクルージョン」を検討するにあたって……27
1　日常的な生きがいの喪失と被災者ケア……27

2　移民社会化とパターナリスティックな支援……29
3　専門的な福祉サービスによる、住み慣れた場での老いや死の実現……31
4　問題に対する想像力と他者とは捉えない実践……33
5　「ケアの倫理」と「共にある」こと――「農山漁村地域型インクルージョン」を成立させるエートス……36

第二章　災害がもたらす生活問題と被災者ケア
――東日本大震災後の宮城県沿岸部農村における事例から――　望月美希

一　問題の所在……48
二　災害とケア……50
1　災害がもたらす喪失――移動の観点から……50
2　災害とケア――持続的なもの／個別的なものとしてのケア……52
3　災害におけるケアの担い手とは誰か……55
三　災害がもたらす生活問題――農村地域における生きがいの喪失……57
四　亘理町の概要……61
1　歴史的背景……61
2　震災による被害と地域社会の動向……64
3　集落組織の動向……65
五　生活問題とケア……70
1　亘理町における被災者支援の動向……70
2　生きがい支援に向けた活動――外部支援者による「健康農業亘理いちご畑」（二〇一二年～二〇一六年三月）……71
3　「被災地支援」から「地域活動」へ――NPO法人わたりグリーンベルトプロジェクトによる「おらほの畑」（二〇一六年五月～二〇二〇年春）……73
4　おせっかいの種をまく――NPO法人虹色たんぽぽによる「みんなの保健室」「おらほの保健室」（二〇二〇年春以降）……75
六　おわりに……81

第三章　移民社会化する地域における「インクルージョン」を考える
――農業に関わる外国人を事例として――　坂梨健太

一　はじめに――外国人受け入れ制度の問い直しと移民社会化……90
二　外国人受け入れに関する視点……94
1　社会的統合、社会的包摂、社会的結束……94
2　社会的再生産……95
三　農業に関わる外国人の研究……97
1　「ウィンウィン（Win-Win）の関係」……97
2　村落研究における外国人……98

四　農業に関わる外国人の事例 …… 102
1　熊本県の事例 …… 104
2　香川県の事例 …… 109
3　農地を確保して自ら農業をはじめた外国人 …… 113
五　考察 …… 117
1　社会のつながりが希薄な統合 …… 117
2　外国人と受け入れ社会の変化 …… 120
六　おわりに …… 123

第四章　［事例報告］介護を通じた暮らしの編み直し――沖縄・池間島を事例に――
加賀谷　真梨

一　はじめに …… 132
二　NPO法人の設立と島社会の再編 …… 134
三　高齢者の暮らしの編み直し …… 140
四　NPOを育んだ島の暮らし …… 142
1　Aさん（昭和三（一九二八）年生まれ、九四歳（調査時、以下同）、女性）のライフストーリー …… 143
2　Bさん（昭和十一（一九三六）年生まれ、八六歳、女性）のライフストーリー …… 144
3　Cさん（昭和七（一九三二）年生まれ、九一歳、女性）のライフストーリー …… 145
五　舎の利用を通じて編み直される関係性 …… 148
六　おわりに …… 152

第五章　持続可能な農山村社会の実現に向けた外国人技能実習生の呼び入れ
――愛媛県の「地域協同組合無茶々園」によるむらづくりを事例として――
二階堂　裕子

一　問題の所在 …… 158
二　移民労働者の主体性 …… 161
三　技能実習生と地域住民の関係 …… 164
四　持続可能な未来に向けた実践と技能実習生 …… 166
1　有機農業を軸とした「百姓らしい生き方」の模索 …… 166
2　技能実習生の受け入れ …… 171
3　技能実習生との連帯による農作業 …… 172
4　研修センターでの共同生活 …… 174
5　技能実習生と狩浜地区の人々 …… 176
6　祭りのなかの技能実習生 …… 177
7　帰国後の生活支援活動 …… 180
8　技能実習生の生活戦略 …… 182

五　結び――外国人とともに拓く農山村社会のこれから……185

【研究動向】

史学・経済史学の研究動向……蔭木達也……194
農業経済学の研究動向……中丸京子……207
社会学・農村社会学の研究動向……阿部友香……219
民俗学の研究動向……金子祥之……230

第七十二回村研大会記事……243
編集後記……248

共通テーマ

農山漁村地域型インクルージョン

――生活問題をめぐる実践から福祉を問い直す

第一章　現代に立ち現れる生活問題と「農山漁村地域型インクルージョン」

山下　亜紀子

本章は、本書のテーマである「農山漁村地域型インクルージョン」について考察することを目的とした。現代の生活問題について、狭義の福祉的課題を取り上げてきた日本村落研究学会の研究の営為を広げる形で、経済的問題から社会的排除の問題に至るまで広く照射することを示した。また本学会が行ってきた地域概念の検討や、地域社会という場での生活維持に関する研究を応用しながら、地域社会という場における生活問題への対応について検討することについても提示した。

本章に続く各章についての分析からは、「農山漁村地域型インクルージョン」として、様々な生活支援ニーズに対応しているものがあることが明らかになった。またそうしたインクルージョンを成立させていたのは、どのようなエートスであったかも検討した。その結果、第一に、可視化されづらいものも含め、人びとの暮らしに関わる問題に気づき応答する「ケアの倫理」に相当するもの、第二に、「共にある」、という二つのエートスを導きだした。さらに支援の対象者をよそ者として捉える姿勢は、「農山漁村地域型インクルージョン」へとつながらないことも示唆された。

グローバルな移動や都市との関係性を所与とする農山漁村地域社会への関わりが、インクルージョンを成立させていることが次章以下で確認できる。また経済合理性では説明できないつながりや共同性として、前掲の二つのエートスが浮かび上がってきた。これらの知見は、今後の福祉理論の展開に貢献ができるものである。